



活動報告

都市気候国際会議に参加して

調査研究科 安藤 晴夫

第7回都市気候国際会議(ICUC-7)が平成21年6月29日～7月3日の5日間、横浜市で開催されました。金融危機やインフルエンザの影響が懸念されましたが、最終的には世界40カ国から400名もの研究者が参加し、各都市が直面する高温化や集中豪雨、大気汚染などのモニタリングや予測、人体や環境への影響と対策等について、気象・地理・建築・土木・都市計画・医学など多様な分野の専門家から研究結果が報告され、活発な討論が行われました。当研究所からは、ヒートアイランド研究に携わる3名が、東京都の状況について3件のポスター発表を行いました。

私は、「都市の地形が東京のヒートアイランドに与える影響」というタイトルで、都心部の高層化が都内の気温に与える影響について、気象観測網METROSや人工衛星のデータを用いて解析した結果を発表しましたが、その際、多くの貴重な意見をいただくことができました。また、期間中に行われたコーヒープレイクや夕食会では様々な国の研究者と親睦をはかることができました。今回の会議で得られた知識や経験を活かして、今後の研究を進めていきたいと思えます。



メキシコの研究者と

ダイオキシン国際学会(Dioxin2009)参加報告

分析研究科 西野 貴裕



私は8月23～28日の日程で、ダイオキシン国際学会(Dioxin2009 於：北京市)に参加してきました。私は、5年前の平成16年にも同じ北京に訪れたことがあります。その当時と比べると昨年のオリンピック開催の際に市街地の整備が行われたこともあり、雰囲気がガラリと変わっており、街並みも空港も格段にきれいになっていました。会場のすぐ近くにはオリンピックのメインスタジアムとなった北京国家体育場(鳥の巣)があり、その大きさにもまた驚きました。

さて、ダイオキシン国際学会についてですが、数多くの国から1,000人以上の研究者が参加しており、ダイオキシンをはじめとする有害な有機化合物の汚染実態等について、口頭発表259題、ポスター発表437題の発表が行われるなど大変大規模なものでした。そのなかで私は、現在研究を進めている有機フッ素化合物の問題について、分析法の検討結果を中心に報告を行いました。また、当研究所の研修生である2人の大学院生もそれぞれ有機フッ素化合物の汚染実態及び汚染源の解明について報告しました。私自身、国際学会は初めてだったため、日本語の全く通じない相手にこちらの発表内容を理解してもらうには苦労しましたが、得意(?)のボディランゲージで意思疎通を図りました。来年はアメリカのテキサス州で開催予定となっています。そこでも機会があれば、当研究所のこれまでの研究成果の発表を行えればと思います。